



安全第一で危険な枯れ松伐倒に挑戦、登山道を塞ぐ倒木も処理。が、まだまだ小範囲。先は長い！！



枯れ松の伐倒について話す見勢井顧問



地元・松ヶ原の平野さん(左)と中本さん(右)

台風の影響を心配しましたが、当日の天候は晴れ。活動するには少し暑いほどでした。作業の大変さが見込まれ、いつもより30分早い8時30分にスタート、倶楽部員の参加は21名でした。

河平連山登山道を整備するきっかけは、もりメイトキッズのフィールドとして松ヶ原の地域と関わりを持つようになり、以前2回ほど整備を行った経緯によります。毎週土曜日に地域の野菜などを販売する「こぶしの里」の代表平野さんから、「登山道が荒れているので、力を貸して欲しい。高齢化が進み中々手がまわらない」との話があり、地域貢献としてお受けする事となりました。

朝のミーティングは、これら河平連山に関わる経緯などを含めた山本理事長のあいさつに始まり、地元自治会長中本さん、こぶしの里代表の平野さんのあいさつと続きました。その後、作業の説明、見勢井顧問からの安全上の注意事項の後、ラジオ体操を行い、車に分乗して作業グループごとに作業現場に向かいました。

当日のメイン作業は、登山道そばの枯れ松の伐倒処理です。枯れ松の伐倒は作業中の枝の落下、幹が折れる等危険

性が高いため、伐倒方向、チルで引く方向、ロープを掛ける高さなど班のメンバーで話し合い、合図の確認徹底を実践しました。また、作業ごとにチルホールやロープチル、チェーンソーの講習も併せて行いました。

各グループとも、予定していた作業は安全にほぼ終了しました。ただし、登山道で整備したいエリアからすればまだまだ小範囲です。今後、河平連山の登山道整備に関わっていくのであれば、ノコ、ナタの軽装備で見晴らしの景観整備を行なえばと思いました。



この時とばかりにチェーンソーの講習も。



安全に倒す為話し合いを重ねる



登山道に横たわる倒木を処理



豊かな自然に恵まれた登山道